

甲斐市文化財調査報告 第10集
(山 梨 県)

埋蔵文化財試掘調査年報 '07

2007

甲斐市教育委員会

甲斐市文化財調査報告 第10集
(山 梨 県)

埋蔵文化財試掘調査年報 '07

2007

甲斐市教育委員会

序 文

甲斐市は、県指定史跡である白鳳時代の古代窯、「天狗沢瓦窯跡」や同じく県指定史跡の「中秣塚古墳」を代表とした赤坂台地の古墳群、弥生から古墳時代にかけての「金の尾遺跡」、平安時代の集落跡「松ノ尾遺跡」など、歴史的資料の豊富な地域にあります。

近年、人口増加に伴い、宅地開発や大型店舗の建設など、多くの開発事業が行われております。本年度は、25件の試掘調査を行い、そのうち、5件で遺構や遺物の発見がありました。

また、茅ヶ岳東部地区広域農道の建設に伴って、試掘調査を行い、新たに遺跡（伝常説寺跡）を確認することができました。

こういった開発に伴って、失われて行く文化財を、行政といたしましては、調査・保存というかたちで、保護していかねばなりません。

当教育委員会では、平成18年度に文化財保護対策事業として、国・県の補助金をうけ、開発に先立ち、埋蔵文化財の遺存状態把握のため、試掘調査を実施してまいりました。

本書は、平成18年度における、試掘調査結果を報告するものです。

今後も、開発によって消滅を余儀なくされる文化遺産を保護し、普及していくことが、私たちの義務と考えております。

最後になりましたが、甲斐市の文化財保護・保存対策に際し、ご理解とご協力を賜りました関係各位に深く、感謝いたします。

平成19年3月

甲斐市教育委員会
教育長 中 込 豊 弘

例 言

1. 本年報は、山梨県甲斐市における埋蔵文化財試掘調査に関する報告書である。
2. 試掘調査および整理調査は、文化庁・山梨県より補助金を受けて甲斐市教育委員会が実施した。
3. 本年報の執筆・編集は、須長愛子が担当した。校閲は大寫正之が行った。
4. 試掘調査で得られた出土品およびすべての記録は、甲斐市教育委員会に保管してある。

調 査 組 織

調査主体	甲斐市教育委員会 教育長 中込豊弘
調査事務局	甲斐市教育委員会生涯学習文化課文化財担当 長 田 徳 一 (生涯学習文化課課長) 大 寫 正 之 (生涯学習文化課文化財担当主査・リーダー) 高 須 秀 樹 (生涯学習文化課文化財担当主査) 須 長 愛 子 (生涯学習文化課文化財担当文化財調査員)
調査担当者	大 寫 正 之 須 長 愛 子
調査・整理 参加者	青山制子・石川弘美・飯室久美恵・長田由美子・小林明美 関本芳子・高添美智子・堤 吉彦・内藤えみ子・羽中田勲 保延 勇・望月典子・森沢篤美

凡 例

1. 遺物挿図中、断面白抜きは土器、 は須恵器、 は陶器、 は磁器を表す。
また、 は赤彩を表す。
2. 土器は1/3、ミニチュア土器は1/2、基石・石鏃は原寸で図示した。

目 次

序 文	
例 言	
調査組織	
凡 例	
Ⅰ 平成18年度（2006）埋蔵文化財保護行政概要	2
Ⅱ 平成18年度試掘調査概要	7
a. 上町北遺跡	7
b. 金の尾遺跡	8
c. 金の尾遺跡①	10
d. 松ノ尾遺跡	12
e. 茅ヶ岳東部地区広域農道敷島2-2工区（伝常説寺跡）	14
Ⅲ まとめ	16
報告書抄録	

挿 図 目 次

第1図 開発件数と指示内容	4	第10図 金の尾遺跡①調査区	10
第2図 試掘調査地点（1）	5	第11図 金の尾遺跡①出土遺物	11
第3図 試掘調査地点（2）	6	第12図 松ノ尾遺跡位置図	12
第4図 上町北遺跡位置図	7	第13図 松ノ尾遺跡調査区	12
第5図 上町北遺跡調査区と出土遺物	7	第14図 松ノ尾遺跡出土遺物	13
第6図 金の尾遺跡位置図	8	第15図 伝常説寺跡位置図	14
第7図 金の尾遺跡調査区	8	第16図 伝常説寺跡出土遺物	14
第8図 金の尾遺跡出土遺物	9	第17図 伝常説寺跡調査区	15
第9図 金の尾遺跡①位置図	10		

表 目 次

第1表 平成18年度試掘調査一覧表（1）	3
第2表 平成18年度試掘調査一覧表（2）	4
第3表 平成18年度届出件数	16

I 平成18年度（2006）埋蔵文化財保護行政概要

平成18年度状況概要

甲斐市は、山梨県の北西部に位置し、人口は74,152人（男性36,896人、女性37,256人 平成19年2月末）、面積は、71.94km²、南北約20km、東西約9kmと南北に長い地形で、南部は平地で住宅地と農地が混在する地域で、近年急速に市街化が進んでいる。

また、北部は山地や丘陵地で農地が広がるが、丘陵地についても平坦地同様、一部で市街化が進んでいる。

本市の包蔵地分布図を概観すると、そのほとんどが、平坦地と丘陵地で確認されている。平坦地南側は堤防跡、中近世の遺跡が点在し、北側の扇状地上の微高地には、金の尾遺跡や松ノ尾遺跡など縄文時代から古墳・平安時代・中世にいたる幅広い時代の大規模遺跡が確認されている。また、丘陵地については、縄文時代を中心とした遺跡が点在し、先端部には、県指定史跡・中稜塚古墳をはじめとする古墳時代後期の赤坂台古墳群が存在する。

本年度の開発は、宅地造成事業や個人住宅建設といった民間開発がほとんどであった。（民間開発71%、公共工事29% 第1図）個人住宅建設については、保護層の確保を行った建設が多く、慎重工事や工事立会の指示が多かった。中でも、甲斐市を通る都市計画街路 愛宕町下条線付近、竜王駅前周辺と市の東側、甲府市との境での開発が目立つ。

また本年度は、昨年度から続く茅ヶ岳東部地区広域農道建設に伴う、試掘調査が4件あり、新たな遺跡の発見に繋がった。

今後の取り組み

本年度は、「遺跡管理情報システム」の竜王地区の入力を終え、甲斐市全体の包蔵地のデータ取り込みを終了した。これにより、いままで住宅地図などから開発の場所を特定し、包蔵地の有無をさらに遺跡包蔵地分布図で確認してきたが、このシステムの導入にともない、より迅速に確認を行うことができるようになった。今後は、試掘調査等によるデータの蓄積を行い、調査の参考にしていく予定である。

甲斐市内は、中央本線竜王駅の周辺整備事業にともない、新設道路などの開発が進んでいる。本年度も試掘調査を何件か行っており、周辺での開発は年々増えていく傾向にある。文化財保護行政の立場からは、開発者に対し、埋蔵文化財への理解を得ていただくために、より一層の努力が必要であると考ええる。

発掘調査に関して、本市は原因者の要請に応じ、教育委員会主体で調査を行ってきた。今後もその体制は変わることはない。

しかし、先に述べたように開発は年々増加傾向にある。このため、調査内容によっては、部分的な調査委託を行っており、19年度においても同様の方針である。本市として、埋蔵文化財をどうしたらより良い状態で守れるか、様々な面から検討を行い、体制を確立していきたいと考える。

平成18年度試掘調査一覧

[試掘調査]

番号	遺跡名	調査地	調査対象面積(m ²)	調査原因	種別	主な遺構	主な遺物	指示番号
1	御岳田遺跡	大下条字御岳田 971-2	232.57	店舗	集落跡	なし	なし	H18.3.2教学文 第2789号
2	飯富氏屋敷	西八幡字法印村 前1054-1	999.8	個人住宅	城館跡	なし	なし	H18.4.12教学文 第105号
3	ニツ塚遺跡	竜王新町字大原 2104-1	236.29	その他(自 家用倉庫)	散布地	なし	なし	H18.4.22教学文 第252号
4	村続遺跡	島上条字村続 373-1外	3281.31	集合住宅	集落跡	なし	なし	H18.5.11教学文 第465号
5	金の尾遺跡	大下条字金の尾 626-1の一部	189	個人住宅	集落跡	溝跡	土師器	H18.5.12教学文 第489号
6	金の尾遺跡・ 東裏遺跡	大下条1634-2 外	12596.5 3	道路	集落跡・ 散布地	なし	なし	H18.5.10教学文 第501号
7	下河原遺跡	名取450-4	240	個人住宅	散布地	なし	なし	H18.5.12教学文 第488号
8	西原遺跡	宇津谷2276外	2122.57	道路	散布地	なし	なし	H18.5.30教学文 第712号
9	金の尾遺跡①	大下条字金の尾 727-10	98.7	個人住宅	集落跡	なし	土師器	H18.6.7教学文 第785号
10	蛇石遺跡	島上条字山宮地 1134-2外4筆	1214.77	宅地造成	古墳	なし	なし	H18.7.7教学文 第1044号
11	霞堤	玉川867の一部	807.78	個人住宅	堤防跡	なし	なし	H18.7.27教学文 第1215号
12	霞堤	富竹新田字東耕 地606-1外	1837	宅地造成	堤防跡	なし	なし	H18.9.1教学文 第1521号
13	松ノ尾遺跡	大下条字松ノ尾 1105・1106・1107	1848	宅地造成・ 集合住宅	集落跡	溝跡	土師器	H18.11.1教学文 第2133号
14	御岳田遺跡	中下条字三味堂 893-1	359.52	個人住宅	集落跡	なし	なし	H18.11.20教学文 第2299号
15	天狗沢遺跡	天狗沢地内	652	道路	散布地	なし	なし	H18.12.13教学文 第2576号
16	片瀬塚古墳	竜王字片瀬50- 1外	1377	その他開発 (土地の売却)	古墳	なし	なし	H19.1.4教学文 第2689号
17	信玄堤	竜王1887の先	171.53	公衆トイレ 建設	堤防跡	なし	なし	H19.2.6教学文 第2967号
18	霞堤	富竹新田字東耕 地517-1	335.29	個人住宅	堤防跡	なし	なし	H19.2.19教学文 第2046号
19	霞堤	富竹新田字十二 名881-1外	1498.72	宅地造成	堤防跡	なし	なし	H19.2.19教学文 第3047号
20	曾利遺跡	団子新居424外	3000	道路	散布地			H19.3.22教学文 第3336号

第1表 平成18年度試掘調査一覧表(1)

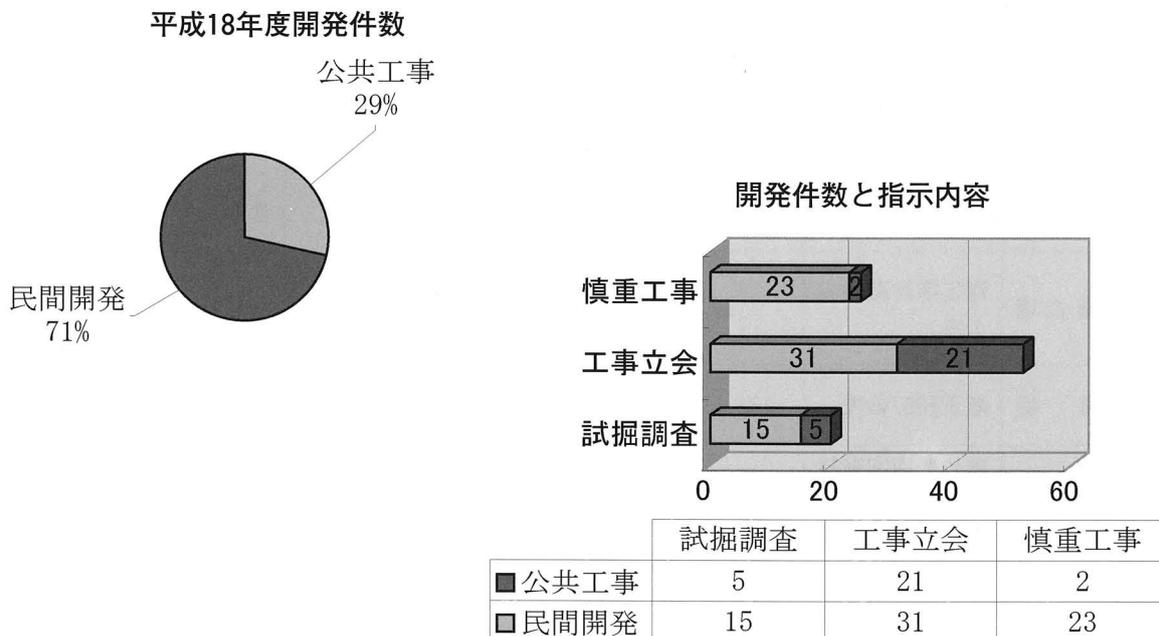
平成18年度試掘調査一覧

[包蔵地外]

番号	調査地	調査対象面積(m ²)	調査原因	種別	時代	主な遺構	主な遺物
1	茅ヶ岳東部地区広域 農道敷島2-1工区 甲斐市吉沢地内	2145.8	道路			なし	なし
2	茅ヶ岳東部地区広域 農道敷島2-2工区 甲斐市吉沢地内	3978	道路	社寺跡	中・近世		五輪塔・土師質 土器・陶磁器
3	下今井字上ノ段2650	1459.8	その他(福祉 施設建設)			なし	なし
4	茅ヶ岳東部地区広域 農道敷島3-1工区 甲斐市吉沢地内	8655	道路			なし	なし
5	茅ヶ岳東部地区広域 農道敷島3-2工区 甲斐市吉沢地内	2300	道路			なし	なし

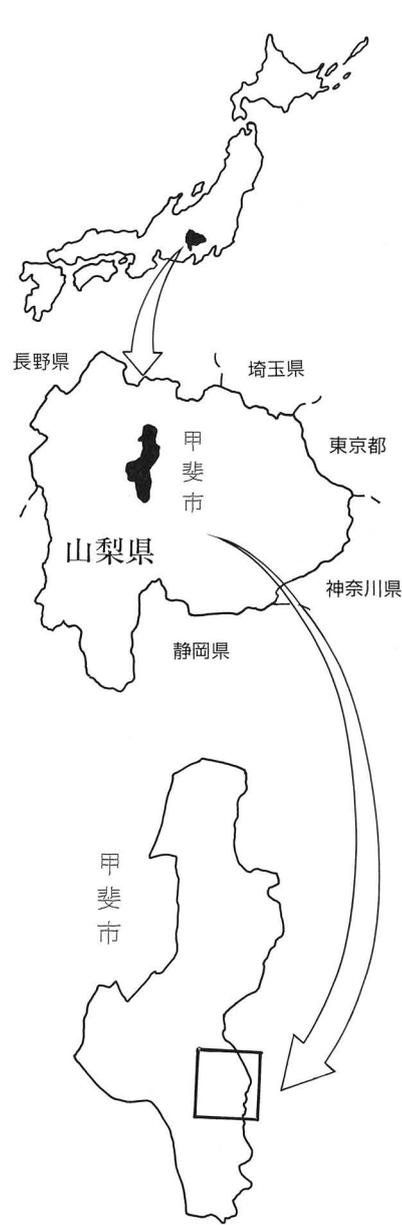
第2表 平成18年度試掘調査一覧表(2)

[試掘調査] 25件 内訳 第1・2表のとおり(うち包蔵地外5件)
 [工事立会] 52件
 [慎重工事] 25件
 [本調査] 1件 内訳 道路

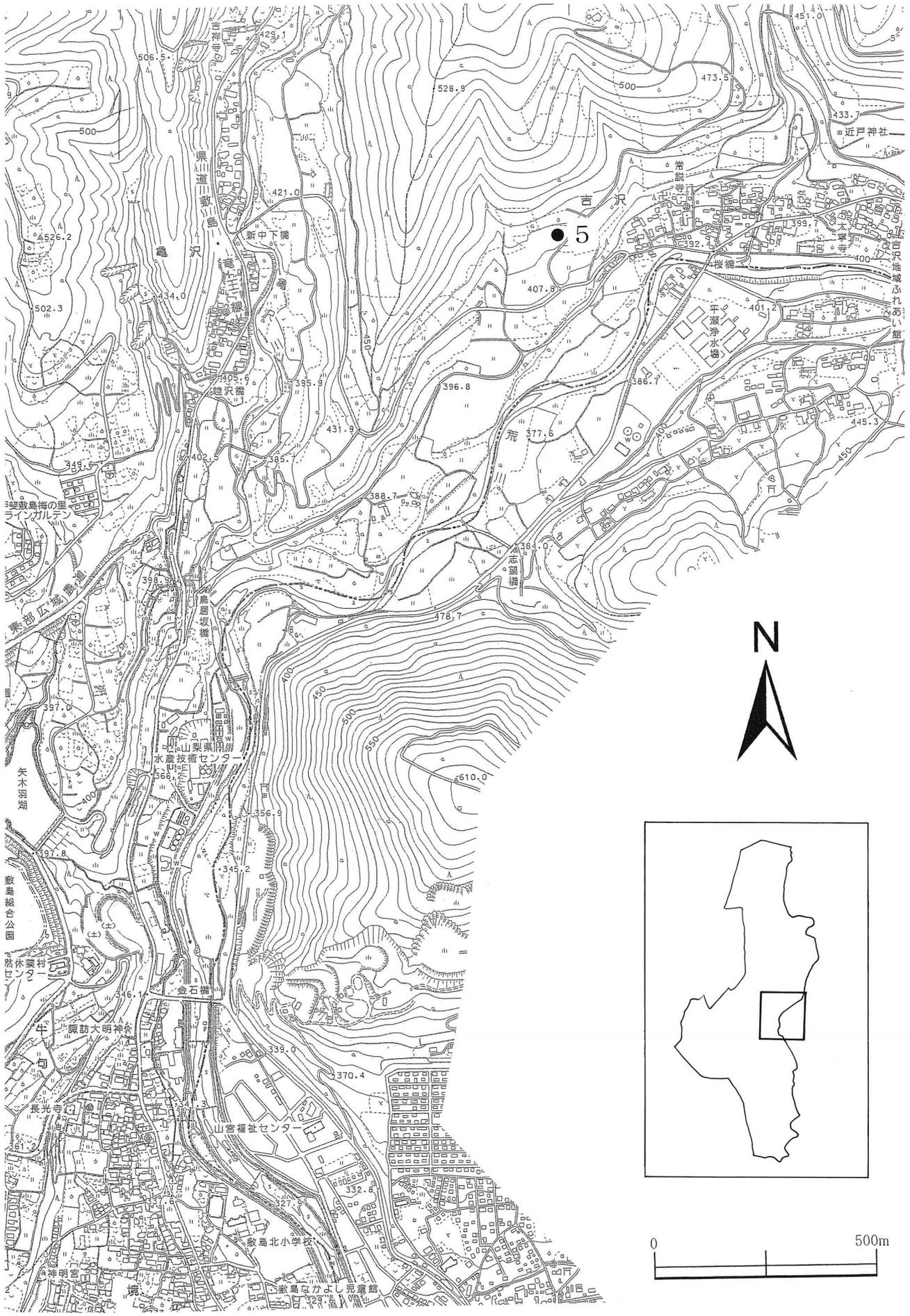


※包蔵地外での試掘調査5件は含まない。

第1図 開発件数と指示内容



第2図 試掘調査地点 (1)



第3図 試掘調査地点(2)

Ⅱ 平成18年度試掘調査概要

a. 上町北遺跡（第2図-1）

所在地 甲斐市島上条1657-1外

調査原因 個人住宅兼工場または店舗

調査期間 平成18年6月22日

調査対象面積 206.20m²

調査担当 大寫正之・須長愛子

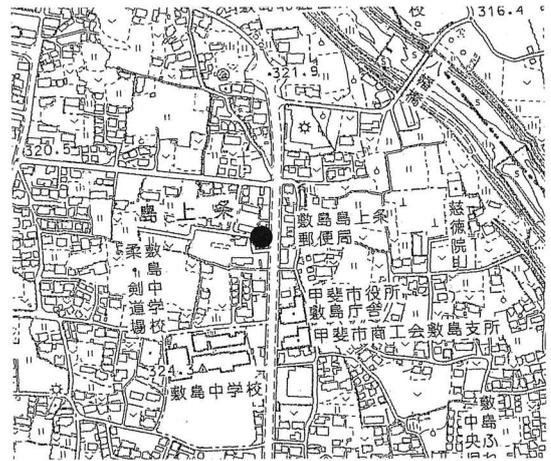
調査概要

調査区にトレンチを入れ調査をおこなった。地表下50cmまで碎石層、茶褐色砂質土、しまり弱。地表下50～60cmまで茶褐色砂質土。地表下75～80cmまで黄茶褐色砂質土、5cm程の礫を含む。遺物はこの層から出土した。

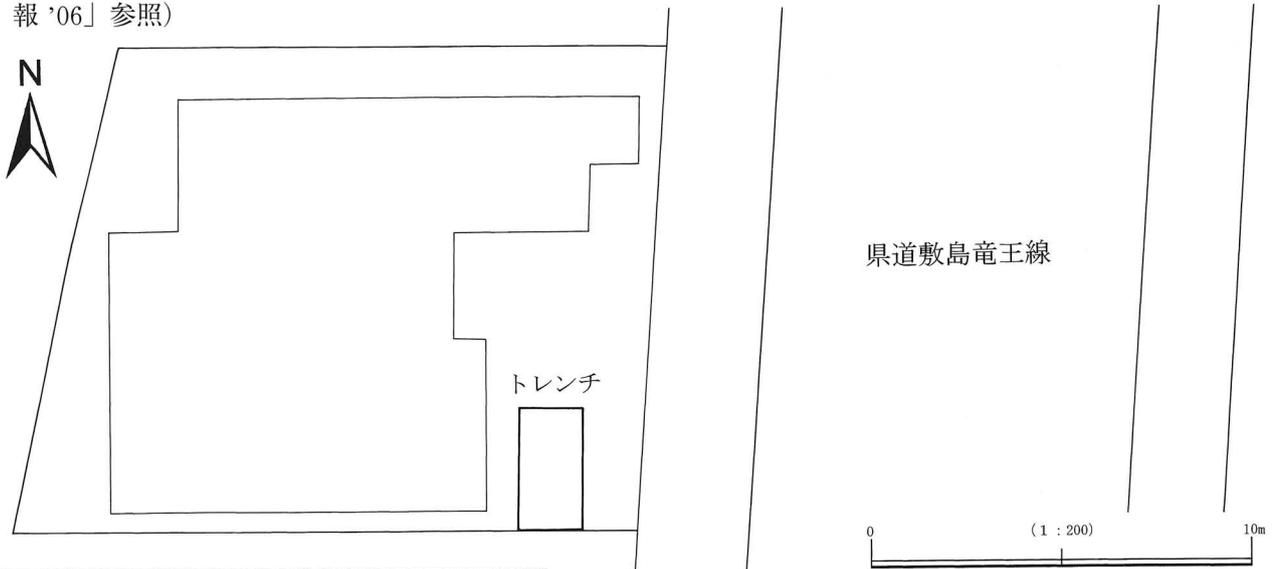
出土遺物は、形状から8世紀後半頃の須恵器杯（1）と10世紀後半頃の土師質土器の杯（2）を確認している。

遺物の出土が少ないこと、遺構が確認されなかったことから、土器を回収して、調査を終了した。

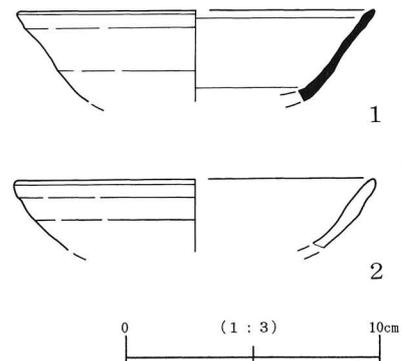
※平成18年1月31日付け届出のため、本年度の試掘調査数にはカウントしていない。（「埋蔵文化財試掘調査年報'06」参照）



第4図 上町北遺跡位置図



上町北遺跡調査状況



第5図 上町北遺跡調査区と出土遺物

b. 金の尾遺跡（第2図-2）

所在地 甲斐市大下条626-1

調査原因 個人住宅

調査期間 平成18年5月22日～5月26日

調査対象面積 189m²

調査担当者 大畷正之・須長愛子

調査概要

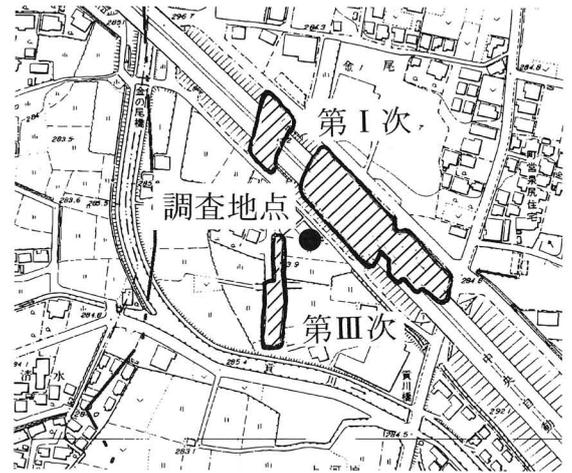
金の尾遺跡は、甲斐市のほぼ中央にある。本調査はこれまでに、7回行なわれており、弥生時代後期の住居跡、方形・円形の周溝墓が確認されており、県内を代表する弥生時代の集落跡である。また、縄文時代から平安時代の住居跡なども

確認している。今回の調査区は第Ⅰ次調査区のすぐ南に位置し、また、第Ⅲ次調査区の北側に位置する場所である。第Ⅰ次調査では、縄文時代中期、弥生時代後期の住居跡、弥生時代後期の方形や円形の周溝墓、第Ⅲ次調査では縄文時代中期から後期にかけての土坑などを確認している。

開発予定地内において、トレンチを入れ、調査を行った。

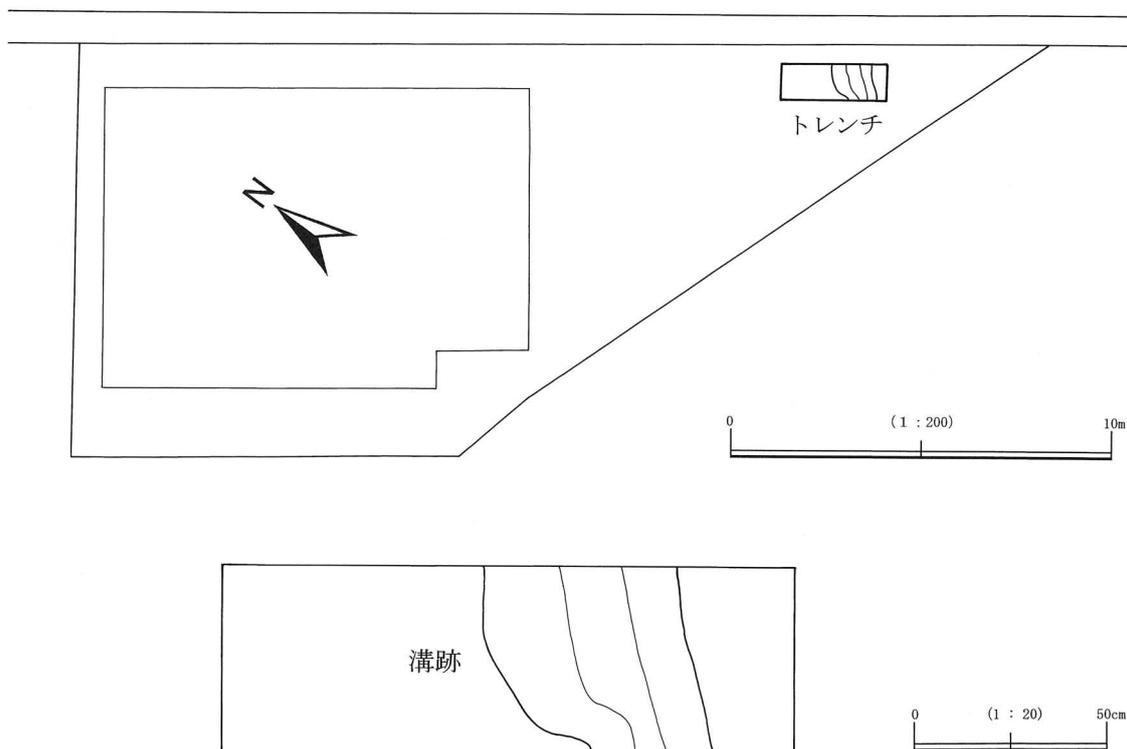
地表下1.25mより溝跡を確認。溝跡は、断面がU字状を呈し、調査区を南北に縦断する。また覆土中（茶褐色砂質土）から、土器片が出土している。

遺物は、縄文時代の深鉢の破片（4）、弥生時代の甕の破片（5）、古墳時代の高坏の口縁（1・2）や甕の破片（3）などが出土している。遺構確認範囲が小規模であるため、試掘調査対応によって、記録保存を行った。



第6図 金の尾遺跡位置図

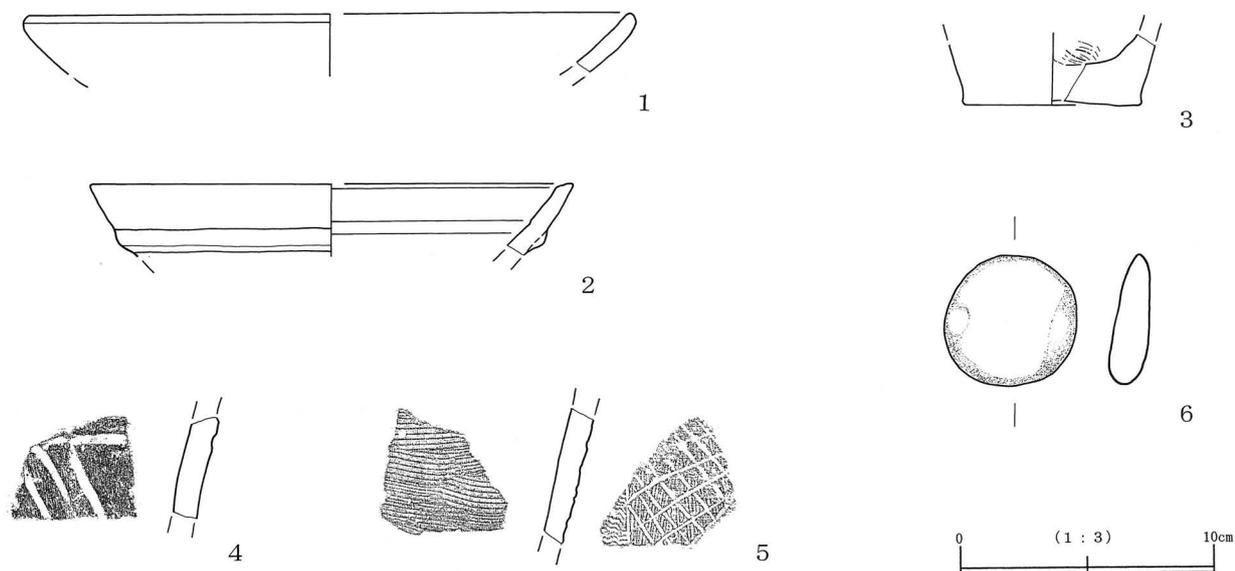
市道中央道金の尾2号線



第7図 金の尾遺跡調査区



金の尾遺跡調査状況



第8図 金の尾遺跡出土遺物

C. 金の尾遺跡①（第2図-3）

所在地 甲斐市大下条727-10

調査原因 個人住宅

調査期間 平成18年7月6日～7月13日

調査対象面積 98.70m²

調査担当者 大寫正之・須長愛子

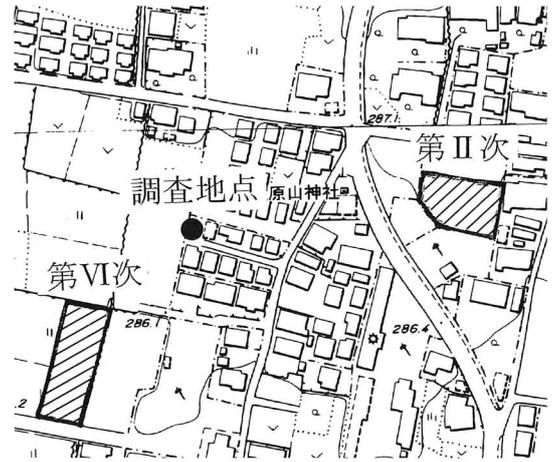
調査概要

調査区は、第Ⅱ次調査区の西側に位置し、第Ⅵ次調査区の北東に位置する。第Ⅱ次調査では、古墳時代の住居跡2軒と平安時代の住居跡1軒が確認されており、第Ⅵ次調査では、弥生時代の環濠跡と考えられる遺構が確認されている。

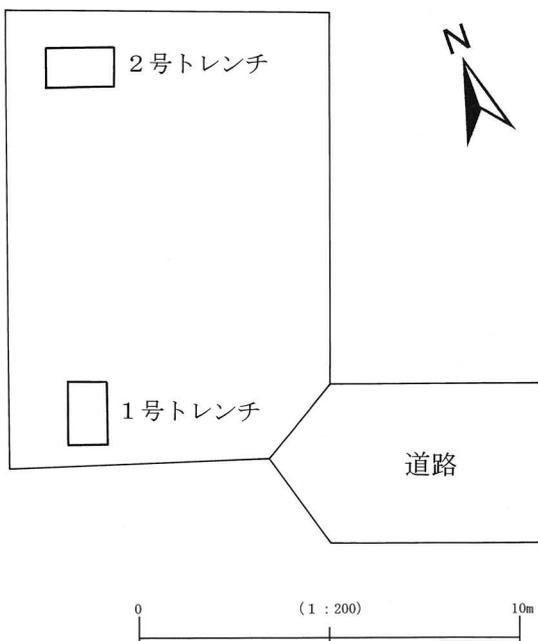
地表下15cmまで茶色砂質土、粘性あり、しまり強。地表下15～20cm、灰茶色砂質土、しまり弱。地表下20～80cm茶褐色砂質土、しまり弱。

遺物は、概ね古墳時代の物であった。遺物5・6は、S字甕の口縁部分であり、古墳中期の初めごろと思われる。また、内外面に赤彩のある坏（1・2）などは、古墳時代後期のものと考えられる。

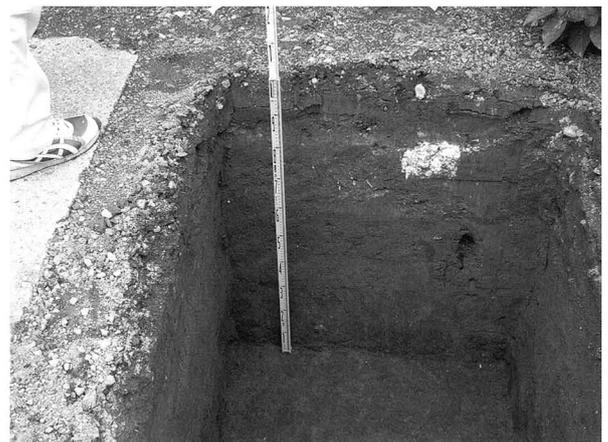
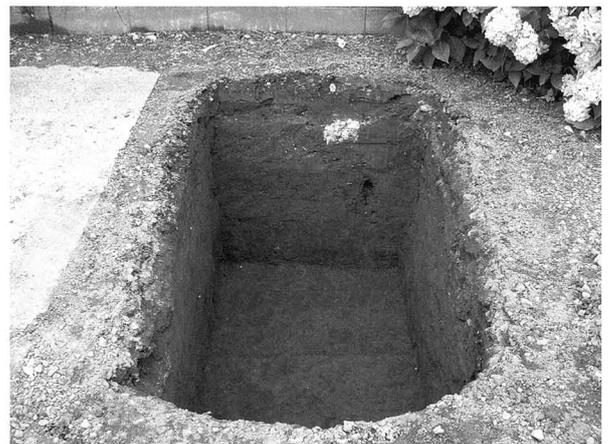
工事面積が小規模であったため、試掘調査対応によって、記録保存を行った。



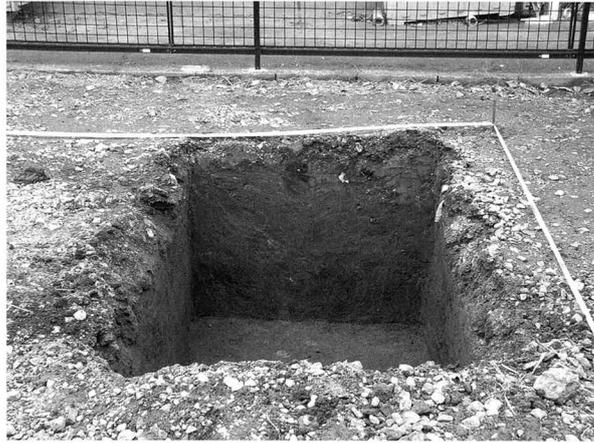
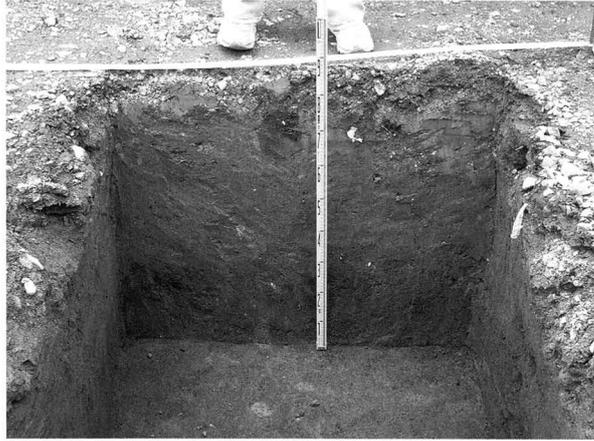
第9図 金の尾遺跡①位置図



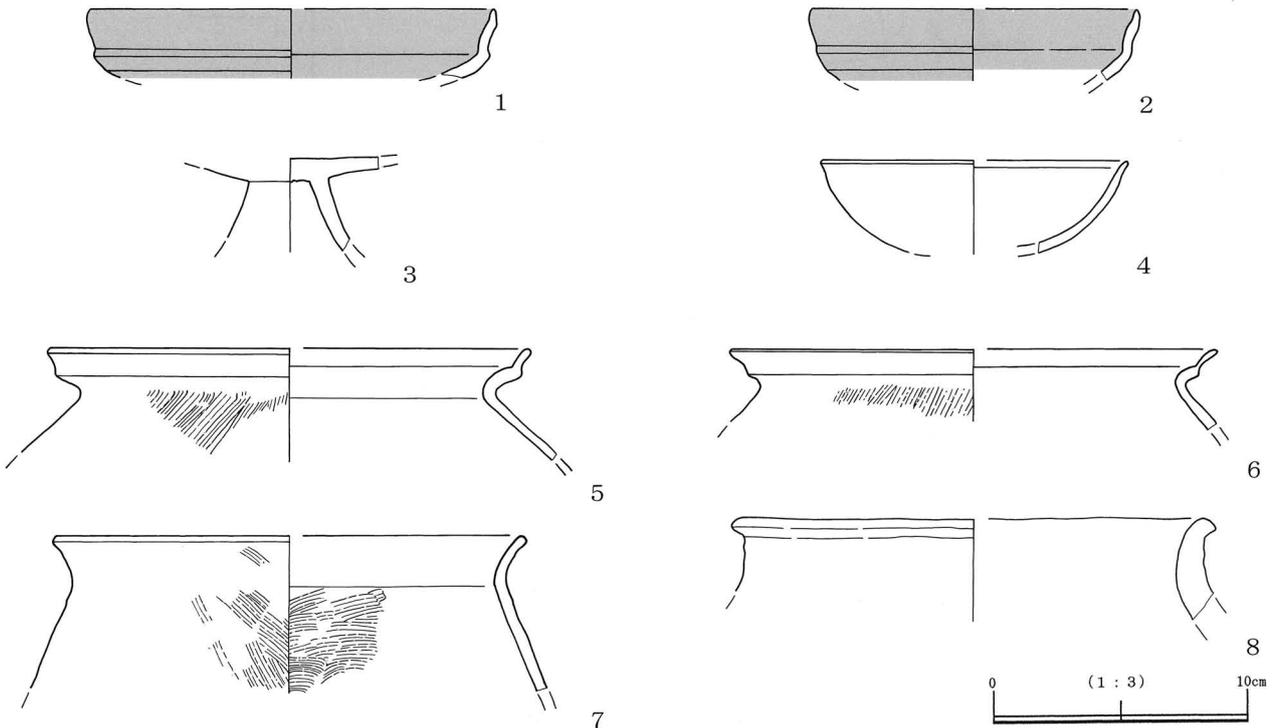
第10図 金の尾遺跡①調査区



1号トレンチ調査状況



2号トレンチ調査状況



第11図 金の尾遺跡①出土遺物

d. 松ノ尾遺跡 (第2図-4)

所在地 甲斐市大下条1105外

調査原因 宅地造成・集合住宅

調査期間 平成18年11月15日～11月27日

調査対象面積 1848m²

調査担当者 大嶋正之・須長愛子

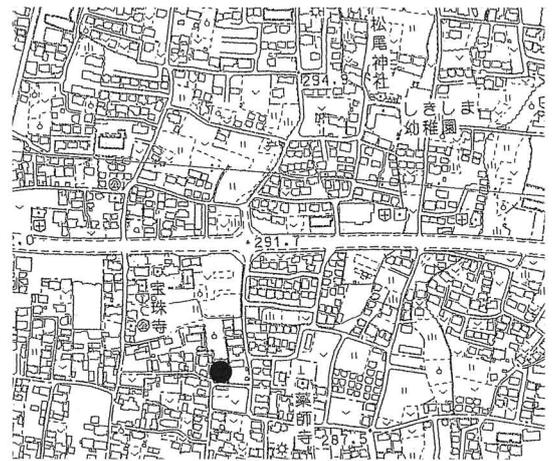
調査概要

建設予定地内に2箇所のトレンチを入れ調査を行った。

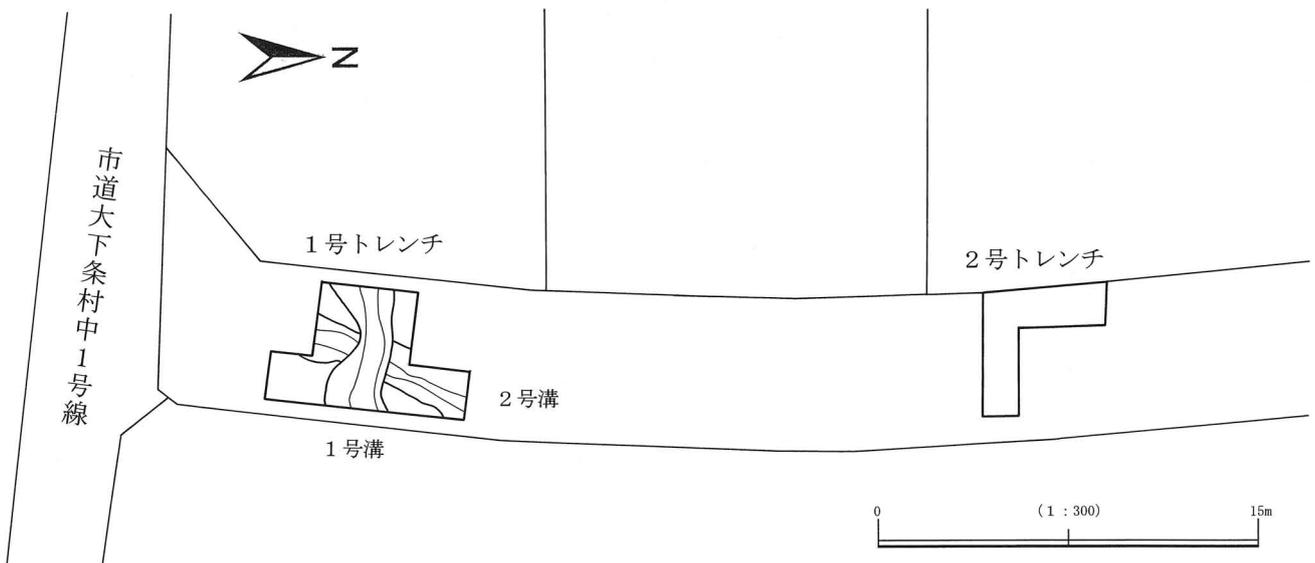
1号トレンチでは、地表下約30cmから東西へ流れる溝跡(1号溝)を確認し、また、地表下約60cmから南北へ流れる溝跡(2号溝)を確認した。調査は、両溝に堆積した層の中にある遺物を回収して終了した。

遺物から1号溝は、陶器の皿(4)、土器では三足香炉(11)や鍋(9・10)などの遺物が出土しているため、江戸時代の溝と考えられる。また2号溝出土の(5)は甕の口縁の形状や櫛描波状文の痕跡をやや残す文様から弥生時代末、また、古墳時代中期の台付甕(6)などが出土している。

2号トレンチは、攪乱の層と地山であったため、そのまま調査を終了した。



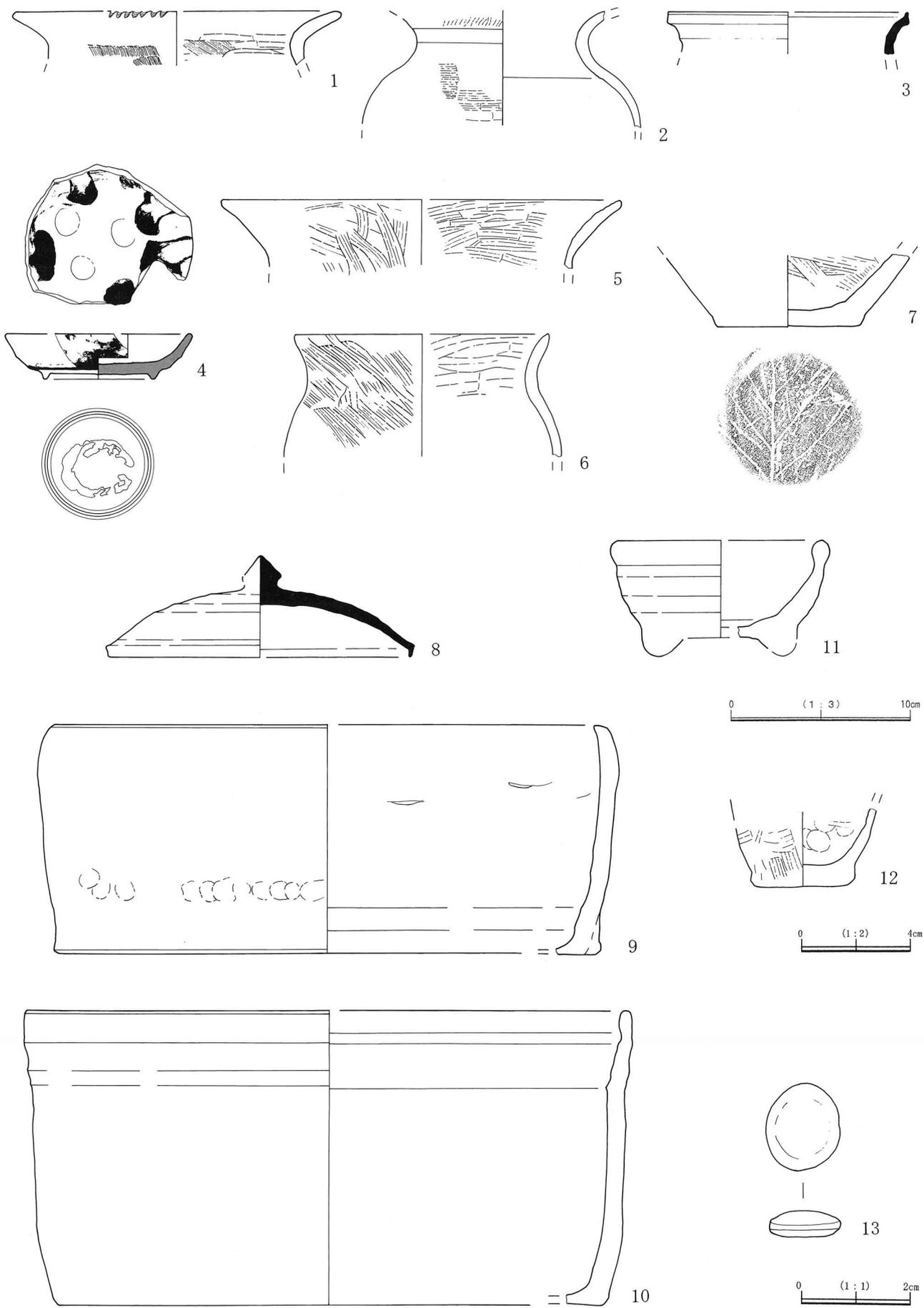
第12図 松ノ尾遺跡位置図



第13図 松ノ尾遺跡調査区



松ノ尾遺跡調査状況



第14図 松ノ尾遺跡出土遺物

e. 茅ヶ岳東部地区広域農道敷島
2-2工区・伝常説寺跡（第3図-5）

所在地 甲斐市吉沢地内
調査原因 道路建設
調査期間 8月17日～8月31日
調査対象面積 3978m²
調査担当者 大島正之・須長愛子
調査概要

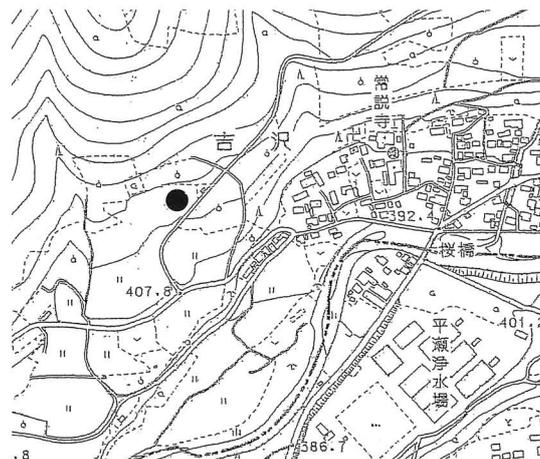
調査場所は棚田が広がる地域であり、調査地も段状になっていた。調査は、開発予定地内数箇所にトレンチを入れて行った。そのうちの、のり面にあたる部分を調査したところ、五輪塔が約70点確認された。密集して確認されたことから、寺院など仏教関連施設があったと考えることができる。また、調査区内には、「元治元年四月十二日 順徳山三十六世 南無妙法蓮華経 日要代」と彫られた石碑がある。石碑から元治元年（1864）に建てられたことがわかり、順徳山は現在調査区の東にある常説寺の山号、日要は常説寺の36世である。『順徳山常説寺略縁起』によると日要は、明治6年（1873）55歳で亡くなっている。

また、「南無妙法蓮華経」は日蓮が唱えた題目である。石碑に刻まれている元治元年（1864）は、日蓮生誕から642年、身延山に入山して590年、没後582年が経過している。

調査では、陶胎染付の碗の破片（2）や磁器の碗（3）等が出土しており、19世紀のものと思われる。また、五輪塔は、15世紀末から16世紀初め頃と考えられる。

なお、平成18年11月から12月にかけて発掘調査を行い、平成19年度報告書刊行にむけ、現在調査分析中である。

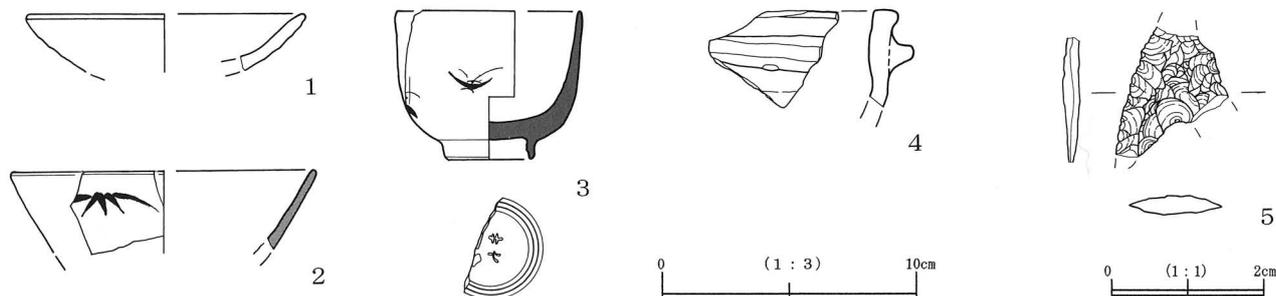
参考文献 『順徳山常説寺略縁起』 昭和17年2月発行 常説寺



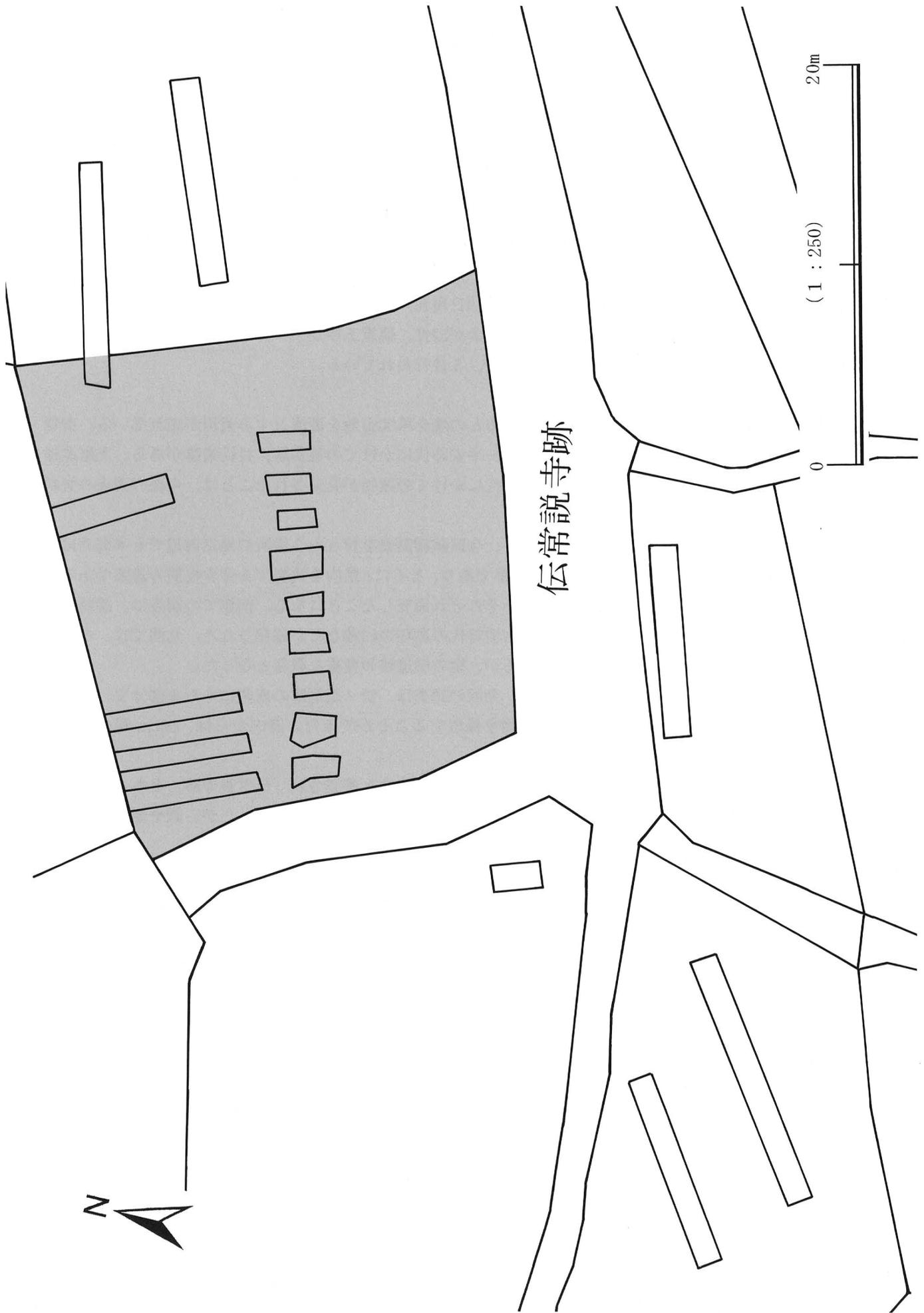
第15図 伝常説寺跡位置図



伝常説寺跡調査状況



第16図 伝常説寺跡出土遺物



伝常説寺跡

20m

(1 : 250)

第17図 伝常説寺跡調査区

Ⅲ まとめ

甲斐市の埋蔵文化財包蔵地は竜王地区79箇所、敷島地区73箇所、双葉地区63箇所、合計215箇所が確認されている。加えて本年度は、茅ヶ岳東部地区広域農道の開設に伴う試掘調査により、遺跡が新たに発見されたため、敷島地区に1件増えて74箇所、市内には合計216箇所の遺跡が確認されているということになる。

埋蔵文化財保護法にもとづく届出件数は97件（3月19日現在）を数える。その内、指示内容としては、試掘調査が20件、工事立会が52件、慎重工事が25件、またその他に埋蔵文化財包蔵地外の試掘調査が、5件行われている。これら調査の結果を以下にまとめた。

上町北遺跡は、甲斐市の中央東側に位置し、甲府市との境を秩父山地を源流とする荒川が流れている。南側には、平安時代～中世にかけての山宮地遺跡や奈良～平安時代にかけての集落跡、村続遺跡がある。上町北遺跡での調査は、今回が初めてであり、奈良～平安時代にかけての遺物が発見されたことは、今後の調査の資料となる。

金の尾遺跡の本調査は、過去に7回行われており、今回試掘調査を行った2箇所の地点周辺でも本調査は行なわれている。金の尾遺跡は、縄文～平安時代の遺跡であり、とくに、県内を代表する弥生後期の遺跡である。

今回の試掘調査では、金の尾遺跡の南側と北側をそれぞれ調査したことになる。南側での調査は、溝跡が確認され、その覆土から縄文時代の深鉢の破片や、古墳時代の高坏の口縁などが確認された。北側では、古墳時代の遺物が確認されている。狭い調査範囲ではあるが、金の尾遺跡の貴重な資料となった。

松ノ尾遺跡での本調査は、13回にのぼっている。今回の調査は、松ノ尾遺跡の南側にあたる部分で、調査区内では、自然流の溝跡が確認され、流れ込んだ遺物を採取することができた。溝内からは、50cm程の円礫も確認されている。

茅ヶ岳東部地区広域農道敷島2-2工区では、その一部が、遺跡と確認され「伝常説寺跡」となった。伝常説寺跡からは、五輪塔、土師質土器、陶磁器のほか今回保存処理中で記載できなかったが、銭や煙管の雁首なども出土している。これらの遺物から、15世紀末から19世紀にかけての遺跡と考える。

現在は発掘調査を終了し、分析を進めているが、出土した五輪塔は、約600個におよんでいる。

今まで、甲斐市北部での発掘調査は行なわれたことがなかった。そのため、本年度は北部の状況を知ることができ、加えて新たな遺跡の発見があったことは、本市にとって大きな成果である。

本年度の試掘調査においては、県内を代表する金の尾遺跡・松ノ尾遺跡2遺跡の資料の収集ができ、市内の東部の遺跡分布状況を再確認することができた。また、新たに1遺跡が加わり、市内北部の様子もわずかではあるが確認することができた。甲斐市において、今後貴重な資料となる。

第3表 平成18年度届出件数

指示内容	件数（公共工事）
試掘調査	20（5）
工事立会	52（21）
慎重工事	25（2）
合計	97（28）

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいしくつちょうさねんぼう					
書名	埋蔵文化財試掘調査年報'07					
副書名						
巻次						
シリーズ名	甲斐市文化財調査報告書					
シリーズ番号	10					
編著者名	須長愛子					
編集機関	甲斐市教育委員会					
所在地	〒400-0105 山梨県甲斐市下今井236番地2					
発行年月日	平成19年〔西暦2007〕 3月30日					
ふりがな 収蔵遺跡名	所在地	コード		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号			
わでちようきたいせき 上町北遺跡	本文中のとおり	19210	敷-40	本文中のとおり	本文中のとおり	本文中のとおり
かねのおいせき 金の尾遺跡			敷-1			
かねのおいせき 金の尾遺跡①			敷-1			
まつのおいせき 松ノ尾遺跡			敷-18			
でんじょうせつしあと 伝常説寺跡			敷-74			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
上町北遺跡	散布地	奈良・平安	なし	土師質土器・ 須恵器		
金の尾遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳	溝跡	土師器		
金の尾遺跡①	集落跡	縄文・弥生・古墳	なし	土師器		
松ノ尾遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳 奈良・平安・中世	溝跡	土師器		
伝常説寺跡	社寺跡	中世・近世		五輪塔 陶磁器 土師質土器		

甲斐市文化財調査報告 第10集

埋蔵文化財試掘調査年報 '07

発行日 平成19年（西暦2007）3月30日

発行 甲斐市教育委員会

〒400-0105

山梨県甲斐市下今井236-2

TEL 0551-20-3658

FAX 0551-20-3659

印刷 株式会社 サンニチ印刷
